

No.137



昭和51年12月15日創刊

宮城県登米農業改良普及センター
～人と技術が織りなす活力ある登米農業～

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼150-5
TEL (代)0220-22-6111 FAX 0220-22-7522
E-mail: tmnokai@pref.miyagi.lg.jp
URL: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>



加工用ばれいしょの培土作業 (中田町)

ピンチはチャンス

昨今の農業情勢は、新型コロナウイルス感染症を発端とする経済活動の停滞から農産物の価格下落等を招き、農業生産現場では大きな変革を迫られている状況にあります。

主食用米についても、このような国内需要を反映し、本年度の米生産の目安が提示され、登米市においては、8,679haと設定されました。この面積は、水田面積の約55%であり、米どころの登米市であっても、適正な需給バランスのためには、55%以内に作付けを抑えなければならないということです。この状況から、大豆、麦や園芸品目への作付転換を早急に進め、需要に応じた生産を進めていく必要があります。

登米市では米を経営の中心と位置づける農家が多いことから、昨年度の米価下落で大きなダメージを受けたものと思います。このこと（ピンチ）を新たな農業

所長 鈴木 秀彦

生産のきっかけ（チャンス）として、作付転換を真剣に検討してみませんか。普及センターは、身近な農業者の支援組織として皆様とともに取り組んでまいります。

本年度は、登米農業の持続的な発展と農村振興に向け、土地利用型経営体等の経営効率化、園芸や畜産経営の体質強化、アグリテックの導入や効果的な活用、環境と調和した持続可能な農業の推進を図ることを中心に、

No.1 加工用ばれいしょ栽培技術の向上

No.2 農地整備を契機とした地域営農体制の構築

No.3 水稻乾田直播栽培技術の向上と安定生産

の3つのプロジェクト課題を重点に、所員全員で取り組んでまいりますので、一緒に登米地域の農業振興を進めていきましょう。

プロジェクト課題活動の紹介

No.1 加工用ばれいしょ栽培技術の向上

登米地域では、実需者との契約による加工用ばれいしょ栽培が行われています。令和3年度に「登米ぼてと組合」が設立され、組織的な活動も始まっています。また、登米地域の農地整備計画地区においては、高収益作物の候補として、ばれいしょの作付が検討されるなど、ばれいしょ栽培への注目度が高まっています。

登米ぼてと組合では、研修会や検討会を開催し、生産性向上に向けて技術の改善に取り組んでいます。水田への作付のため、湿害や緑化の発生などの課題を抱えています。普及センターでは関係機関・団体と連携し、登米ぼてと組合の生産性向上に向けた活動を支援します。

○技術対策実践支援

栽培ほ場の排水対策や病害虫防除など、技術対策の実施を支援し、収量及び品質の安定確保を目指します。

○技術・経営評価支援

調査ほを設置して、生育環境データの収集・分析を行うとともに、経費や労力等についても評価を行い、技術対策の効果を検証します。

○組合活動支援

生産性向上に向け、現地検討会等の開催を通じ、生産者間の情報交換など、組合活動を支援します。



加工用ばれいしょの作付ほ場

No.2 農地整備を契機とした地域営農体制の構築

迫町の船越集落と古宿集落にまたがる古宿地区では、令和元年から地域の将来像について話し合いを進め、令和3年10月には、「地域営農構想」をとりまとめました。構想に掲げた農地の大区画化やスマート農業を実現するために、令和6年度の農業競争力強化農地整備事業（受益面積93.4ha）の活用を目指しています。

さらに、この事業を契機として、担い手経営体（13人）への農地の利用集積や水稻依存からの脱却、経営体の法人化等を目指しています。

○法人設立支援

担い手経営体からの法人設立を支援するとともに、法人の事業計画や作業計画策定についても支援します。

○高収益作物の選定

担い手経営体の園芸作物導入や栽培技術向上に向けて、加工用ばれいしょの試作や他の園芸品目の導入検討を支援します。

○担い手会議の開催支援

地域営農構想の具体化に向けて話し合う担い手会議の開催を支援します。



古宿地区でのワークショップ

No.3 水稻乾田直播栽培技術の向上と安定生産

米価の低迷や規模拡大に伴う労働力不足等により、作業の省力・低コスト化が可能な水稻乾田直播栽培が注目されています。

そこで、昨年度から管内の3法人を対象に、水稻乾田直播栽培の収量安定支援、省力・低コスト化に向けた評価を行っています。

○水稻乾田直播栽培のコスト評価と栽培事例の取りまとめ

乾田直播栽培におけるコスト分析を継続し、栽培暦の見直しを行い、3法人の栽培体系について取りまとめ、栽培実践事例集を作成します。

○水稻乾田直播の収量安定支援

令和3年度の調査ほの坪刈り収量は、3法人平均で642kg/10aとなり、目標（580kg/10a）を上回りました。今年度も引き続き、生育調査等を通じて乾田直播技術の向上と収量の安定化に向けた支援を行っていきます。



レーザーレベラーによる均平作業

登米市の元気ファーマー

佐藤 由真さん (中田町)



中田町出身の佐藤由真さんは、令和3年4月に中田町の農業生産法人である株式会社石ノ森農場に就職しました。就職のきっかけは、宮城県農業大学校の授業にある先進農業体験学習を石ノ森農場で経験したことでした。体験学習できゅうりや花き類の栽培に魅力を感じ、地元に戻って就職することを考えた際、まず思い浮かんだのが石ノ森農場だったそうです。

会社での担当は、施設園芸部門の出荷・調製作業です。きゅうりやストック等花き類の作業に携わっており、大学校で学んだ事以外の様々な作業に大変さを感じていますが、直売所への出荷の際にお客さんから「おいしそう」、「きれいな花ね」と声を掛けてもらう事に喜びを感じているとのこと。

今後について、「早く一人前になり、栽培技術や経営管理を学んで会社に貢献できるようになりたい。」と意気込みを語ってくれました。

農業を楽しく皆で考える～登米市4Hクラブの紹介～

4Hクラブは、農業経営での課題解決や、より良い技術を検討するプロジェクト活動を中心に、消費者や他クラブとの交流を行う事を目的とした、20～30代の青年農業者で構成される組織です。

登米市4Hクラブのメンバーは、作物や園芸、畜産の青年農業者、農業法人の社員と様々で、現在14人が農業知識や技術の向上、地域農業の発展を目指して活動しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で顔を合わせての活動が難しい中、Web会議システムを活用してクラブ員同士が繋がり、十分な感染症対策を取ったうえで先進地視察研修や耕作放棄地を活用した野菜作り、販売会を通じた地域との交流を行っています。また、宮城県農村青年のつどいや農村青年教育会議など、他地区との交流も積極的に参加しています。

新規クラブ員は、常時募集中！農業に興味のある方や青年農業者同士の繋がりをもちたい方など大歓迎です。興味のある方は普及センター地域農業班まで御連絡ください。



スポーツ交流会

女性農業者団体の紹介!～アグリレディーズネットとめ～

アグリレディーズネットとめは、女性農業者の交流、次世代女性リーダーの輩出を目指して平成21年に専業農家の女性を中心に結成されました。現在の会員数は37人です。

活動は、先進的な農業経営の取組みや農業生活を学ぶ先進地視察研修会の他、土づくりや農業の基礎知識等の栽培技術を勉強する学習会、調理実習などを行っています。

最近では新型コロナウイルス感染症の影響で十分な活動はできていませんが、昨年は会員のインタビュー動画を作成し、その動画を視聴しながら地場産農産物を使った料理を試食して会員同士で交流を深めました。

アグリレディーズネットとめでは新規会員を募集しています！地元の女性農業者と繋がりたい方、活動に興味がある方は普及センター地域農業班まで御連絡ください。



フラワーアレンジメント講習会

農地を貸したい！農地を借りたい！そんなときは農地中間管理事業を活用しましょう！

グリーンな栽培体系への転換を模索する実証事業を展開します

国では、将来にわたって持続可能な食料システムを構築するため、「みどりの食料システム戦略」を策定しました。その中で、農業生産分野においては、農薬や化学肥料・プラスチック資材の削減、温室効果ガス排出削減など環境に配慮した「グリーンな栽培体系」への転換を目指すこととしています。

登米地域でも、今年度、プラスチックコート肥料やメタンガス排出量の削減を目指し、新たな水稻栽培技術体系の検討を行います。

普及センターでは、JAみやぎ登米が市内の各町域に設置する展示場において、JAと連携して生育状況や収量性の調査を行います。また、検証した栽培体系を盛り込んだ栽培暦または栽培マニュアルの作成にも協力いたします。



グリーンな栽培体系を検証します。(イメージ)

土の健康診断をしたことはありますか？

普及センターでは農作物の生産支援の一環で、販売作物を作付するほ場の土壌分析を行っています。

肥料のなかには、雨で流亡・流失しやすいものとそうでないものがあり、たい肥や化学肥料等を連用している田畑では、特定の成分が過剰に蓄積したり、反対に不足している事例が多数みられます。土壌分析を通じて土壌中の成分の偏りを知ることができるほか、次期作に本当に必要な肥料の成分と量が分かります。これは生育改善につながるだけでなく、肥料の節約や環境負荷軽減にもつながります。1～2年に一度、土壌分析をして残肥を確認しましょう。

※分析結果をお返すまで、数週間ほどお時間をいただくことがあります。
各種補助事業の申請準備のための分析や家庭菜園の土の分析はできません。
土壌分析について、ご不明の点がありましたらお気軽に普及センター先進技術班までお問い合わせください。



土壌分析作業中

農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）

宮城県では、6月1日～8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。

①使用する農薬の農薬登録を確認しましょう。

②農薬容器のラベルをよく読みましょう。

③周辺環境や近隣住民に配慮しましょう。

④土壌燻蒸剤の取扱いに注意しましょう。

⑤農薬散布中・作業後の事故に注意しましょう。

⑥農薬は鍵のかかる場所に保存しましょう。

宮城県登米農業改良普及センター(※)の活動体制

地域調整班
Tel 0220-22-3535

農地法，農振法，農業金融，経営所得安定対策，みやぎ食と農の県民条例
環境保全型農業直接支払制度，農業経営基盤強化促進対策
エコファーマー，県農産物認証表示制度，農産物の生産・流通対策

※ 地域農業班
Tel 0220-22-8603

地域農業振興計画策定推進，地域農業を担う組織育成
青年農業者の育成，女性農業者の育成，鳥獣害対策，農業士・4Hクラブ

※ 先進技術班
Tel 0220-22-6127

生産技術改善の普及指導，経営管理の高度化の推進
主要農作物種子生産，アグリビジネス，6次産業化